

やっぱり、地球はそれほど古くなかった

Bryan Osborne

ご紹介いただいたとおり、アンサーズ・イン・ジェネシスから来ました。

私たちは、クリスチャンが自分の信仰を弁明し、福音を宣べ伝えられるよう養う働きをする団体です。また、ノアの箱舟を建てた団体です。

アメリカ、ケンタッキー州北部にあります。

これはノアの箱舟の実物大レプリカです。

信仰を弁明するための疑問に答えることを目的として建てられました。

もし行く機会があれば、ぜひ訪れてください。

開館から2年間で入場者は200万人を超えています。

行く機会があれば、本当にそのお金を払って見る価値があります。

ここからは少し遠いですが。

また、創造博物館もあります。

ここで私たちが来場者に見ていただきたいのは、聖書が真実であるということです。

過去、現在、未来のことについて聖書が正しい真理であるということをお話したいのです。ですから、ノアの箱舟「アーク・エンカウンター」と創造博物館では、懐疑的な人々からの疑問に答え、信仰を弁明し、福音を宣べ伝えています。

私たちの生きる現代には、このような働きに大きなニーズがあると感じています。

その目的は、ペテロ第一3:15やユダ1:3にあるとおり、信仰を弁明するという神の命令に忠実であることです。

そのように信仰を弁明する中で、効果的に福音を伝えるためにそれらすべてを用いています。

聖書の権威を弁明するにあたって、現代もっとも大きな課題のひとつは、地球の年齢についてです。

今日の講演会・メッセージでは、地球の年齢が何十億年である可能性はあらゆる証拠によって否定されていることをお話しします。

聖書の教える地球の年齢と、世俗の科学者たちの語る地球の年齢に大きな誤差があることは否定できません。

今日は、聖書に堅く立つなら、実際には科学と聖書の両方が聖書の正しさを繰り返し立証するというものを見ていきます。

しかし、それらの証拠を詳しく見る前に、まず、根本的なことをふたつお尋ねしたいと思います。

まずひとつめは、「なぜクリスチャンは地球の年齢が何百万年だと信じるべきではないのでしょうか。なぜそのことが大切なのでしょうか。」

これは、道理にかなったよい質問です。

最初に、私が挙げる理由は次のとおりです。聖書が明確に語る内容を私たちは信じられるのでしょうか。創世記の文章と文脈、またその他の聖書箇所は明確です。文章と文法的構造が、何百万年の解釈を許さないのです。

次に、聖書の神学が、何百万年の解釈を許しません。

聖書は、人間の罪がこの世に死をもたらしたと非常に明確に語ります。

そして、ローマ8:22によると、その罪がすべての被造物に影響を与えました。

被造物はうめいています。人間の罪のせいで、造られた世界は傷つき壊れています。この世に苦しみがあるのはそういう理由です。

無神論的思想を聖書に無理やり詰め込もうとすると、どんなやり方であれ、それは、罪が入る前に死があったとすることになります。これは、あらゆる理由から神学的に不可能です。ここにいくつかの理由を挙げましょう。

創世記1:29で、神はもともとアダムとエバに果物を食べるように命じておられます。そして、30節で、動物は草を食べるようにおっしゃっています。

もともと、すべての生き物は草食でした。これは聖書の理にかないます。というのも、罪が入る前は死がなかったのですから、人が罪を犯すまで肉を食べることはできなかったからです。肉を食べるといことは、死んだ動物を食べているからです。

洪水の後初めて、神がノアに「すべて」を食べてよいとおっしゃいました。

なぜこれが問題なのでしょう。それは、次のとおりです。聖書が明確に教えている内容と示す内容は、神が完全な被造物をお造りになり、人が罪を犯して死をこの世にもたらし、その後、現存する化石の大半がノアの洪水の時に埋まったというものです。これを否定するなら、そして、人が存在する前、つまり罪を犯す前に、化石が何百万年を経て徐々に堆積したという世俗の考えを信じるなら、

それらの化石の中には、動物が他の動物を食べた形跡を見ることができるのです。

ちょっと、待ってください。聖書は、人が罪を犯す前はすべてが草食だったと語ります。

また、化石の中には、腫瘍の痕跡も見ることができます。

ガンや関節炎などの病気の痕跡です。

けれども、聖書は、人が罪を犯す前、神が創造の六日目にすべてをご覧になり、「非常に良い」とおっしゃったと語ります。何百万年もの苦しみや流血、病気やガンを「非常に良い」とは言われたいでしょう。もしそうなら、とても良い神とは言えません。

それが本当なら、神が死を造られたお方だということになります。それだけでなく、何百万年もの死と苦しみを「非常に良い」の一部として用いられたということになります。これは、聖書の教える神ではありません。これは、神の品性に対する間接的な攻撃です。

何百万年も前のものとされる化石の中に、いばらが見つかります。

けれども、いばらが生えたのは呪いの後だと聖書は明確に教えます。いばらは、呪いの結果生えたものです。キリストが十字架で「いばらの冠」をかぶられ、私たちの代わりに呪いを負われたのは、こういうわけです。

何よりも大切なのは、もし聖書に何百万年の説を無理やり詰め込もうとすると、それがどんな方法であっても、「長期説（一日一時代説）」、「断絶説」、進化的創造説、「有神論的進化論」、「枠組み説」、「宇宙神殿説」、ほかのどんな方法でも、そのすべてが根本のところまで神学的問題をはらんでいます。それは、どれも罪の入る前に死があったとすることです。ご覧ください。

もし罪が入る前に死が存在したなら、死は罪の結果や罰ではなくなります。（聖書がはっきり教えているとおり）死が罪の罰でないなら、イエスの死は、私たちの罪の負債を支払うことになりません。

これで、意図したかどうかにかかわらず、キリストが十字架上でなされた贖いによる福音の土台をぶち壊したことになります。

少なくとも、キリストの御業を不必要なものとしてしまいました。これは、極めて非聖書的です。だからこそ、私たちはここまで気にかけるわけです。だからこそ、これは大切なのです。私たちは、地球の年齢に関する論争に勝つことに情熱をかけているのではありません。聖書の権威と、その権威に基づく福音を守ることに情熱を注いでいるのです。これこそ、攻撃されているものです。これこそ、脅かされているものです。だから、私たちはここまでこだわるのです。

それは、なぜ神を知らない世俗の科学者たちがこれほど間違っているのかということなのです。

彼らは、聖書とまったく異なる結論を出しています。

まず、私たちが気づくべき事柄があります。

聖書を信じる科学者もそうでない科学者も、現在に残された同じ事実を見ています。

考えてみれば、化石はいつに存在していますか。過去ですか。現在ですか。

いつに存在しますか。

現在ですね。

今、化石が存在していなければ、私たちがそれを手にすることはありません。

ですから、気づかなければならないことは、骨や地層は現在に存在することです。そして、現在に存在する骨や地層に、「私は 6500 万年前のものです」というようなラベルがついているわけではないということです。

地球も、その年齢が書かれたラベルはどこにもありません。

もしそうなら助かります。聖書が正しいことが確実にわかりますから。

しかしここに、しっかり把握しておくべき核となる本質的な要点があります。

それは、科学者に与えられたすべての証拠は現在に存在していることです。

すべての科学者が、同じ石や化石、遠い星の光を見ているわけです。

けれども、それぞれが現在において違った解釈をし、どこから来たのかやそれらの年代について異なる推論を立てます。しかも、過去に関する異なる仮説に基づいて推論を立てるのです。

ここが重要なポイントです。

最初の仮説が間違っていると、間違った結論にたどり着きます。

それが、神を信じない世俗の科学者たちが、地球の年齢などいくつかの事柄についてこれほど間違っている理由です。

このことをわかりやすく説明するために、ここでジョークを言いたいと思います。

うまく通じるかわかりませんが、試してみましょう。

昔、あるおじいさんがいました。彼は、うちの奥さんは耳が遠くなってきていると思い込んでいました。

それで、奥さんの後ろからそっと近づき、3メートルくらい離れたところから、「聞こえるかい？」と言ってみました。

返事はありません。

それで、少し近寄って、「聞こえるかい？」ともう一度言いました。

またもや返事はありません。

それで、奥さんのすぐ後ろに立って、「ねえ、聞こえるかい？」と言いました。

すると奥さんは答えました。「3回目ね。聞こえてるわよ。」

これでおわかりいただけたでしょうか。間違った仮説は間違った結論を生むのです。

同じようなことです。

地球の年齢に関する問題が、その良い例です。

皆さんはご存知ないかもしれませんが、18世紀後半か19世紀前半くらいまでは、ほとんどの科学者は聖書を信じていて、地球の年齢は数千年ほどだと考えていました。

それが、この教科書に書かれていることです。

ところが、18世紀後半ごろにある科学者たちが現れ、人々の考えが変わっていきました。

では、19世紀初頭に、その科学者たちは何を発見して、聖書を信じなくなったのでしょうか。

実際には、何も発見していません。

その時も、その科学者たちにあったのは、同じ石や化石でした。

放射線年代測定は、もっと最近になってできたものです。

何が起こったかと言うと、ある科学者たちがそれまでと違った世界観をもって地層や化石を解釈しなおしたのです。

この教科書を引用して、何が起こったかをご覧くださいませ。

そこにはこう書かれています。「放射線年代測定がまだなかったころ、多くの人々は地球の年齢が数千年だと考えていました。」

けれども、18世紀にスコットランド人科学者のジェームズ・ハットンが地球はもっと古くからあるという推測を立てました。彼は、斉一論の原理を用いました。

この原理は、地球上現在起こっている過程は過去に起こった過程と似ている、と述べます。

つまり、今起こっている現象が見えない過去にも同じように起きたと提唱しているわけです。

さらに続きます。「彼は、身近な石や地面の変化は非常にゆっくりであることから、地球の歴史上ずっと同じようにゆっくりしたペースであったと推測しました。」

それなら、地層が形成されるには数千年以上かかるはずだとハットンは仮説を立てました。つまり、当てずっぽうに考えたわけです。

ですから、ここで注目していただきたいのは、彼が何百万年という結論を出したのは、新たな証拠に基づいてではありません。

すでにあった証拠に違った解釈をただけです。

斉一論という仮説に基づいた解釈です。

現在を観察することが過去を理解するカギだという考えです。

これは、自然主義という世界観または宗教に基づくものです。

自然主義という宗教は、実存するもののすべてを説明するためには自然や物質が使われなければならないという考えです。

そこには、神の啓示を受け入れる余地は一切ありません。

そこに中立性はまったくないことに注目してください。聖書が間違っているという前提からの推測です。

19世紀に入って見られるのは、聖書が最高権威であった時代から人間の言葉が最高権威とされるように変わっていったことです。

これが理由で、地球が何百万年前からできているものである説が有力な説となりました。

多くのクリスチャンがその考え方を受け入れるようになってしまいました。

コロサイ 2:8には、実際に次のような警告があります。

「あのむなしい、だましごとの哲学によってだれのとりこにもならぬよう、注意しなさい。それは人の言い伝えによるもの、この世の幼稚な教えによるものであって、キリストによるものではありません。」

ですから、神のみことばの上にかたく立つ必要があります。

すると、素晴らしいことが起こります。

私たちがみことばに立つなら、神のみことばが真実であることが繰り返し証明されるのを見るでしょう。

あらゆる年代測定法がありますが、そのほとんど9割がたは、地球の年齢が若いことを示します。

自然主義的な世俗の推測を使っても、年代測定法が若い地球の年齢を指し示すのです。

その証拠をすべて見ていくと、何百万年もかかってしまいますから、すべては見ませんが、

その中でいくつかの証拠を見ていきましょう。

ここでこれらの方法を紹介する中で、それらが正確な地球の年齢を割り出すのではないということをはっきりさせます。

それらの方法が割り出すのは、地球の年齢の可能性の最大値です。

それらの方法は、地球の年齢の可能性の最小値は出しません。

ですから、それらはすべて、聖書の教える枠の中には入ります。

では始めましょう。けっこうたくさんのお話を聞いていきます。

まず、宇宙からの証拠が宇宙の年齢の若いことを示します。

私の好きなもののひとつ、銀河です。とてもきれいですから。

多くの銀河には、渦巻きがあります。

これは、進化論者にとっては大問題です。

というのも、そのような銀河が何十億年も前にできたものであれば、そのような渦巻きは存在するはずがありません。

なぜなら、これらの銀河を見ると、中央に近い星は、外側の星よりも速いスピードで回っているからです。

数百万年以上も前にできた銀河であれば、すぐにこのような姿になるはずですが。

もちろん、このような姿は見ません。

私たちに見えるのはこちらです。

これは、聖書が教える宇宙と地球の年齢を確証づけます。

また、これらの銀河は銀河団の中に見られることが多いです。

巨大な銀河団には星があります。

そのような銀河団の中の星や銀河は速いスピードで動いています。

重力がそれらをひとつの集団にまとめているのです。

けれども、重力の作用でそれらをひとつにまとめていられる時間には限りがあります。

これらの銀河団が本当に何百万年も、何十億年も昔からあるなら、もうすでに銀河団ではない状態になっているはずですが。

大昔にバラバラになっていたはずですが。

また、星に関して言うと、平均して30年に一度ほどの頻度で星の爆発が起こります。

もし宇宙が本当に何十億年も昔からあるなら、無数の超新星残骸が観測できるはずですが。

ところで、星が爆発するのを超新星と呼びます。

では、実際に観測できる超新星残骸はいくつでしょう。

205です。

それは概算で6000-7000年分の超新星残骸となります。

これは、聖書の教えと一貫します。

また、宇宙には、多くの青色巨星というものがあります。

非常に明るく、速く燃えます。

燃料を速く燃やすので、何億年も寿命はありません。

現在、新たに形成されつつある青色巨星は観測されていません。

しかし、宇宙のあちこちで青色巨星が見られます。

また、私たちのいる太陽系でも、太陽風と太陽放射による抵抗力という現象があります。

このふたつの現象には、太陽系を掃除する役割があります。
太陽風は外向きの力を用いて、小さな粒子を太陽系の外に排出します。
そして、太陽放射による抵抗力の力は微小隕石を吸い込みます。
巨大な掃除機のような働きをします。
太陽風と太陽放射による抵抗力というふたつの現象は、最大5万年で全太陽系のすべての微小隕石を掃除してしまいます。
これらの微小隕石に補充源は見つかっていません。
ですから、もし私たちの太陽系が5万年以上前から存在するなら、これらの微小隕石はひとつも見つからないはずで
す。
しかし、太陽系には微小隕石があふれています。
ということは、5万年よりもずっと若い、1万年よりも若いということです。
同じようなことが、他の太陽系でも起こっています。
また、木星は、太陽から受ける熱量より放射する熱量が2倍です。
木星がそれほどのスピードで熱量を放射していて、何十億年も前からあるなら、今ごろは冷たい石になっ
ているはずで
す。
けれども、木星の核はとても熱いのです。
同様のことが海王星でも起こっています。
土星、天王星、金星でもです。
これらの星はすべて、何十億年も存在していたにしては熱すぎるのです。
これらの観測事実はすべて、聖書の教えるように数千年前にできたのであれば、整合性が取れます。
これは簡単な原理です。部屋に入ると、コップに入ったコーヒーがあったとします。
そのコーヒーが熱ければ、そこに長くあったわけではないとわかります。
同じことです。
イオと呼ばれる木星の月があります。
イオは、非常に活発な火山活動がいくつも見られます。
つまり、その核部分はとても高温だということです。
もし年齢が数十億年だったら、そんなに高温ではないはずで
す。
次に、木星の月ガニメデについてです。
ガニメデには、非常に強力な磁場があります。
これは、溶解した液状核によるものです。
この核はきわめて高温です。
ガニメデが何十億年も前にできていれば、もっと低温で磁場も弱っているはずで
す。
木星自体にも似たことが観測されています。
木星には驚くほど強力な磁場があります。
木星が何十億年も前にできていたなら、磁場は非常に弱いはずで
す。
すばらしいですね。
木星の磁場の強さが計測される前に、聖書を信じる科学者ラッセル・ハンフリーズ博士は聖書的世界
観に基づいて磁場の強さを正確に予測しました。
予測が正しいと確認されたら、初めの仮説が正しかったという説得力ある確証となります。
進化論者に問いたいもう一つの質問は、「なぜ太陽系に今も彗星があるのか」ということです。
進化論では、彗星は約45億年前にできたと考えられています。そして、補充源は発見されていま
せん。
もうひとつおもしろいのは、月が地球から遠ざかって行っていることです。
月は地球から毎年約5センチ離れていっています。
月が地球から離れて行っているということは、過去にはもっと近くにあったということになります。
約6千年前さかのぼると、月は少し近くにあるだけで地球に影響はありません。
もし数百万年前にさかのぼると、月は地球に近すぎて、一日に二度も地球を破壊するほどの潮位変化
が起きます。
そんなものは一度でたくさんです。
十億年前にさかのぼると、月は地球にぶつかります。
それは大変ですね。
もっとさかのぼって話すこともできますが、話を進めなくてはなりません。

では、地球の年齢が若いことを証明する地球の証拠を見ていきましょう。
地球の磁場は弱まっています。
過去 150 年で 1 割弱くなっています。
弱まっているということは、過去にはもっと強かったということです。
7,000 年前までさかのぼると、磁場が現在の約 32 倍の強さになります。
それは私たちにとってとても有利です。
けれども、ずっとさかのぼって 2 万年前まで行くと、磁場が強すぎて地球が液化します。
それも大変ですね。
では、これはどうでしょう。
地球の自転速度は低下しています。
時刻を正確に保つために、時々うるう秒が足されるのは、こういう理由です。
では、地球の自転速度が低下しているなら、過去にはもっと早く回っていたことになります。
数千年前なら、それは大きな問題ではありません。
私たちに影響はありません。
けれども、何百万年もさかのぼれば、自転速度が速すぎて地球が崩壊してしまうでしょう。
もしそれが本当なら、恐竜が絶滅したのはそのせいでしょうか。
炭素 14 年代測定法はどうでしょう。
これは、聖書の教える時間の尺度を確証づける一番良い方法の一つです。
炭素 14 年代測定法は古い地球を立証すると考えている人には、これは驚きでしょう。
けれども、実際にはその正反対です。
炭素 14 は地球の大気内でつくられます。
炭素 14 は、不安定な元素です。
それで、すぐに窒素 14 に変化します。
ビデオでご覧いただいたとおり、炭素 14 は植物に取り込まれます。動物は植物を食べ、人間は動物も植物も食べます。
それはつまり、すべての生き物が炭素 14 をいくらか含んでいるということです。
炭素 14 は不安定であることを覚えておいてください。
実際、皆さんも体内に炭素 14 を持っているのです。
そして、こんなことが起こります。
生き物が死ぬと、炭素 14 を取り込まなくなります。
そして、体内に残された炭素 14 が崩壊し、窒素 14 に変わり始めます。
炭素 14 は速いスピードで崩壊するので、10 万年経てば、その生き物に残された炭素 14 は検出されなくなります。
つまりこういうことです。
10 万年よりも古いものからは、炭素 14 が検出されるはずがありません。
そして、地層にある生物の痕跡のほぼすべてから何が見つかるのでしょうか。
すべての生物の痕跡や地層から、検出可能な炭素 14 が大量に見つかります。
石炭や恐竜の骨、ダイヤモンドにも炭素 14 が大量に見つかります。
これは、これらの物が古くても数千年前のものであることを示す目に見える証拠です。
すばらしいですね。
目に見える証拠と言え、皆さんもご覧になったことがあるかもしれませんが、念のため、お見せします。
恐竜の骨からは何度も何度も何度も何度も見つかっていますが、軟部組織が恐竜の骨の中にそっくりそのまま残っているのが見つかっています。
伸縮性が残ったままの状態です。
そして多くの場合、それらの軟部組織に血管や赤血球が損なわれずに残っているのです。
そのような有機物の痕跡は、生物の死後何百万年も残るはずがありません。
特別な状況下で数千年なら残るかもしれません。
けれども、何百万年はどうしても無理です。
洞くつに入って、「地層を触らないでください。長い年月を経て形成されたものですから」と言われたことはありませんか。
大きな流理性の岩の層が形成されるには長い年月がかかると一般的に教えられています。

しかし、実際には、たくさんの水と、水の中にたくさんの鉱物があれば、長い時間はかかりません。これは、40年で1.5メートルになった鍾乳石です。

これはオーストラリアで50年間の間に巨大になった鍾乳石です。

ワイオミング州には、ミネラルを多く含んだ熱い水を吹き出しました。

この水が湧き出すと、ミネラル成分が残ります。

このような状態のシンクを見たことがありますか。

それは、ミネラル成分が残っているのです。

ワイオミング州でこの100年間のうちにどれだけの石灰が排出されたかご覧ください。

たった100年です。

ずいぶんたくさんの石灰です。

もうひとつがこれです。

さらに、もうひとつです。

もうひとつ地球の年齢を示すしるしとして、海水中に塩分が蓄積する速度があります。

浸食が進むと、海に塩分が流れ出します。

4億トンを超える塩が毎年海に流れ出します。

しかし、世俗主義者が信じるように何十億年前から地球があるに於ては、海中の塩分が少なすぎるのです。

海中の塩分含有量に基づいた海の年齢の最大値は、現在、6,200万年です。

忘れないでください。これは最大値であって、最小値ではありません。

ノアの時代に起こった洪水は、相当な量の塩分を海に放出したでしょう。

また、今日の浸食のスピードでは、大陸が1,400万年で浸食しつくされることとなります。もちろん、そんなことは起こっていません。

けれども、もし本当だったなら、大陸は何度も繰り返し浸食しつくされていたでしょう。

すると、化石が何百万年前のものであるという世俗の考え方が崩壊します。

これは、進化論者にとって大問題です。

また、浸食が進むと、土が海に流れ出ます。

現在の浸食のスピードに基づくなら、地球の年齢が何十億年であれば、もっと多くの土が海にあるはずで

海にあらゆる成分や化学物質が入り込み、海が何十億年も前からあるなら、有害物質の投棄場所のよ

うな状態になっているはずで

けれども、そうではありません。よかったですね。アーメンでしょうか。

また、こういう疑問もあります。なぜ人間の頭蓋骨は珍しいのでしょうか。

もし進化論者が信じているように人間が何百万年前からいるなら、墓地には人間の頭蓋骨が何億何千万とあるはずで

けれども、見つかっているのはたった数千で

これは本当に素晴らしいと私は考えます。

ノアの時代に行けたとしたら、

そして、4,500年くらい前に箱舟を降りて、4,500年くらい前に8人から始めたら、

現代のような控えめな人口増加率を用いると、2000年あたりで60億人に達すると予測できます。

それがまさに今の世界人口で

では、これと進化論の考えを比較してみましょう。

4万1,000年前に一对の男女から始まったとすると、地球の人口は10の89乗人になります。

それだと、約6.5平方センチメートルに15万人の人が入らなければならなくなります。

大混雑ですね。

また、なぜ歴史の記録はだいたい5,000年前からの物だけが信憑性があるのでしょうか。

歴史の記録では、人間の文明は言語の発達した完全に形成された形で突然あらわれます。

また、サハラ砂漠も良い例で

この砂漠がどれくらいのスピードで広がっているか計測することができます。

現在のスピードに基づく

と、サハラ砂漠はおおよそ4,000前からあります。

なぜ世界一大きな砂漠の年齢が4,000年なのでしょう。

私には仮説があります。後ほど皆さんにお話ししましょう。

その前に、オーストラリアのグレートバリアリーフについてお話し

グレートバリアリーフの一部は第二次世界大戦中に破壊されました。
そして、科学者たちはそれが20年で元通りに育ったのを観測しました。
あまりに速く元通りに戻ったので、彼らはサンゴ礁全体が4,200年ほどでできたかもしれないと科学者たちは言いました。
世界一大きなサンゴ礁の年齢が4,200年だとしてもおかしくないのはなぜでしょう。
これについて、私には仮説がありますが、後でお話しましょう。
最後に、カリフォルニア州のセコイヤの木です。
見たことがありますか。
私は数ヶ月前に、妻と一緒に見に行きました。
巨大な木です。
私も、これくらいなら木を抱きしめる人になれます。
これらの木はあまりにも大きいので、大きな自然災害などを除いては自然界に敵なしです。
もちろん、人間もです。
けれども、こういうことです。
樹齢4,000年以上の木は見つからないのです。
なぜでしょう。
すべての生物の痕跡に炭素14が見つかるのはなぜでしょう。
恐竜の軟部組織が見つかるのはなぜでしょう。
世界一大きな砂漠の年齢がおそらく4,000年なのはなぜでしょう。
私はある仮説を立てています。これが、私の仮説です。
私は、約6,000年前に神がすべてを創造されたと信じています。
そして、約4,500年前に、洪水が起きました。
地球規模の洪水が世界を破壊し、それ以後にあらゆるものができたのです。
本物の科学は、このことを繰り返し繰り返し繰り返し確認づけます。
クリスチャンの皆さん、このことを覚えておいてください。
現在は過去を知るカギではありません。
神のみことばが、過去、現在、未来へのカギです。
神のみことばだけが、唯一誤りのない年代測定法です。
本物の科学は、このことを繰り返し確認づけます。
最後にひとつ質問と考えを述べます。この質問と考えが良い締めくくりになるので、これをもって、今日の講演会・メッセージのまとめとしたいと思います。
これらの証拠が聖書の教えを追認するのに、どうして多くの賢い人たちにそれがわからないのでしょうか。
彼らは、確かに賢いのです。
なのに、なぜわからないのでしょうか。
これで締めくくります。皆さん、これは結局、知性の問題ではありません。心の問題です。そのことを覚えておきましょう。
そこから、世界観の問題になるのです。
これは、問題の核心に迫るもう一つの例です。
火星には、グランドキャニオンより明らかに大きな峡谷があります。
ここで湧く疑問は、どのようにしてグランドキャニオンより大きな峡谷ができるかです。
もちろん、どれくらいの時間がかかるかも気になります。
さて、多くの世俗の科学者たちによると、次のような答えです。
火星の峡谷は、数週間です。
何百万年もかかったのではないのですか。
どうやってそんなことが起きたのでしょうか。
彼らは次のように語ります。これは、彼らの言葉そのままの引用です。
「聖書に出てくる規模の洪水が、火星でグランドキャニオン級の峡谷を瞬時に作った。」
ちょっとよくわかりません。
洪水はどこで起きたとおっしゃいましたか。
皆さん、彼らは、まったく、またはほぼ水のない場所で聖書に出てくる規模の大洪水が起きたことを信じられると言っています。

それなのに、表面積の7割が水で覆われた惑星で聖書に出てくる規模の大洪水が起こったことは信じようとしません。

「どうしてそんなにわからずやなのか」と言いたくもなりません。

要するに、博士号はすばらしいものですが、博士号は人の心を変えません。

改めて言いますが、これは頭の問題ではなく、心の問題です。そして、世界観の問題になります。

聖書はこう言います。

信じない人がしていることはこんなことです。

ローマ1:18は、「不義をもって真理をはばんでいる」と語ります。

ローマ1章は、被造物や私たちの良心から、神がおられることは明らかだと語ります。

けれども、信じない人は真理をはばむのです。

そして、これがその理由です。

もし創造主なる神が存在したら、その神は私たちを造り、私たちを所有しています。そして、その神が規則を定めます。

私たちは、その神に申し開きをする義務を負います。

そして、罪深い人間は、そんな考えを嫌います。

だから、不義をもって真理をはばみます。

私たちはこういう認識を持っています。私たちが弁明・弁証するとき、私たちがしているのは次のことです。

神のみことばの真理を人々に示すため、みことばを弁明するために、神のみことばという土台に立ちます。

それは、人々の心をイエス・キリストの福音のために備えるためです。

人の心、人の考え方、人の世界観を変えるのは、福音です。

私はよくこんなふうに言います。

私たちクリスチャンは、究極の答えであるイエス・キリストにたどりつくためにあらゆる答えを用います。

それが弁証学のすべてです。

アーメンでしょうか。アーメンですね。

今日は無料でお持ち帰りいただける本があります。

私が書いた「難しい質問へのすばやい答え」という本です。

私は早口だと人から言われるので、本はゆっくり書きました。

でも、33の質問にすばやく答えています。

この本は無料です。

もしファイルのほうがよければ、ダウンロードもできます。

私のパソコンに入っていますので、USBフラッシュドライブを持ってきていただければ、ダウンロードします。

他にもこのような本があります。

証拠の洪水ですね。これらの物も無料です。

また、アンサーズ・イン・ジェネシスのウェブサイトをご覧くださいようおすすめします。

私たちのウェブサイトでは、無料でたくさんの記事が読めます。

そして、ウェブサイトではあらゆる言語に対応しています。

もしもっと深く学びたい場合は、アンサーズ・ジャーナルもあります。

これは、複数の科学博士による論文審査のある専門誌です。

それも無料です。

フェイスブックやツイッターでつながりたい人は、どうぞ私のページをフォローしてください。

お聞きくださりありがとうございました。

忘れないでください。弁証学のすべては、神のみことばに忠実であるためです。

私たちは、究極の答えであるイエス・キリストを人々に分かち合うために、あらゆる答えを提供しているのです。アーメンですか。アーメン。